

令和7年度 学校評価自己評価表(中間)

北広島町立芸北小学校

ミッション 学校経営基本方針 学校教育目標 めざす子ども像 めざす教職員像 研究主題	社会の中で自律して生きる力を有した子供を育てる すべての子どもたちに健やかで安全な学びの場を提供し、一人ひとりの力を最大限に引き出す教育を実現する。 めざす自分をえがき 自らよりよく生きようとする児童の育成 ○自分で考え 挑戦する子 ○互いを尊重し 力を合わせる子 ○楽しさを作り出す子 ○児童の思いを受け止め、意欲を引き出す教職員 ○使命を自覚し、自らを高めていく教職員 ○良さを認め合い、協働して進む教職員 自分の考えをもち、表現できる児童の育成 ～算数科における「共学力」の育成を通して～	評価基準 A…適正 B… 不適正 C…評価できない													
	目標		実 践		評価基準 4…100%～ 3…80～99% 2…60～79% 1…60%未満					評価基準 A…適正 B… 不適正 C…評価できない					
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策		評価方法		a目標値 (中間)	目標値 (最終)	b今回の 達成割合	達成割合 (最終)	目標に対する 割合b/a	評価	成果と課題の分析		学校運営協議会	
												改善の方向性		評価	コメント
健やかな心と体	心身の健康をめざし、自ら鍛え整える力をつけける	①体力・運動能力向上	①業間運動(サスケタイム)の充実させる (晴天の時:5分間走、雨天の時:縄跳び)	○5月と11月に持久走を測定し、走るタイムが向上した児童の割合 【中間】 低学年→500m 中学年→800m 高学年→1000m	90%	90%	84%		93%	3	○音楽を流したり、児童に声を掛けたりすることにより、サスケタイムに対する意欲を持続することができた。 ○行事や雨天時にもサスケタイムを中止せず、児童が運動を継続的に行えるようにすることができた。 ●90%の目標にしたが、学年には一人も体力を下げるところが許されないため、設定目標が高すぎた。 ○運動会で一輪車の表現を3・4年生が見せたことで、1・2年生の一輪車への意欲が向上した。 ●1学期に3・4年生は一輪車の取組を進める	・サスケタイムをより児童に寄り添ったものにするために、音楽を児童から募る。 ・マラソン大会の告知を早めに行うことや、サスケタイムでの距離を意識させることで、児童が体力を向上させていることを実感できるようにしていく。	A	・サスケタイム、子供達が一生懸命走っていてよい。 ・担当の先生がアナウンスしながら児童の意欲を引き出しているところがよい。 ・休み時間に外で遊ぶということは続けてほしい。	
			②縄跳び・一輪車ステップアップカードを実施する。	○縄跳び・一輪車の技をステップアップできた児童の割合【最終】	75%	75%	76%		101%	4	○取組み表を毎日提出させ、コメントをして貼ったことで、児童の意欲を持続できた。また、目標を自分で決めたことで取り組みやすかった。さらに、中学校や家庭との連携もできた。 ●メディアコントロール取組み前の意識づけが不十分だった。	・事前の全体指導を行い、メディアをコントロールする必要性を意識づけて、取組みを行なう。 ・中学校や高校も時期を合わせて、連携した取組を継続する。	A	・特になし	
豊かな心	他者とともによりよく生きる基盤となる道徳性を育てる	自分の思いを伝え、人間関係を積極的に紡いでいこうとする力の育成	①人間関係を紡ぐ力につけるための作戦「人とながる4つの方法」を実践させる。 ・友達のことを知る。 ・友達の良いところ・頑張りを見つける ・友達と一緒に何か(活動)をする。 ・友達のためになること(役に立つこと)をする。	○児童アンケート「自分の思いを伝えることができる」「学年関係なく、誰とでも力を合わせて活動することができる」における肯定的評価の割合	80%	80%	100%		125%	4	○人間関係を紡ぐ力につけるため「人とつながる4つの方法」を朝の会、帰りの会、学級活動に取り組むことにより自分の思いを伝えることができる児童が増えた。 ○ショートエクササイズやペアトークやグループトークをすることで自分の思いを伝えることができたり、誰とでも力を合わせることができる児童が増えてきた。 ○オフィシャルタイムを設定し、児童主体でRegexを企画し、児童同士が楽しながら関わり合うことができるようになら。	・引き続き、人間関係を紡ぐ力につけるための作戦を活用し、人間関係をさらに深めていきたい。	A	・昨年度までになかった取組も行い、成果が出ていると感じる。	
			②朝の会、帰りの会、学級活動の始めにショートエクササイズやペアトークやグループトークをする。	○児童アンケート「自分の考えをもつことができている」「授業中に自分の考えを伝えることができている」における肯定的評価の割合	75%	80%	95%		119%	4	○授業の時間に加え、放課後パワーアップを活用して習熟を図ったことが基礎学力の定着につながっている。 ●学級によって放課後パワーアップの取組状況にはばらつきがある。	・放課後パワーアップの時間や取組内容について、学校で統一をして重点的に取り組む。 火曜日:学級の課題に応じた問題 木曜日:個に応じた問題	A	・ショートエクササイズやペア、グループトークにも引き続き取り組み、学年関係なく力を合わせる活動を進めていく。	
確かな学力	知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力並びに主体的に学習に取り組む力を育成する。	①基礎学力の定着 ②自分の考え方を表現できる力の育成	①「放課後パワーアップ」に、15分間学力補充の時間を確保する。 ②算数科授業で、全員が対話する場を多く設定する。 ③授業研究を通して、対話のさせ方の工夫を学び合う。	○算数科の単元末テスト(知識・技能・思考・判断・表現の合計)の平均80点以上の児童の割合	75%	80%	95%		80%	4	○児童から出た話題を教室に掲示し、意識して活用しようとしたことや、対話の場(ペアトーク、グループトークなどを工夫したこと)は、児童の意識変化につながっている。 ○長期休暇を活用して、理論研修や指導案検討等の研修を積極的に行い、授業改善に向けて職員の意識統一に取り組んだ。	・職員全体会議で共通認識を持って研究授業や職員間の積極的な授業交流を行い、良いところを取り入れたりお互いにアドバイスしたりして授業改善に取り組む。 (授業改善の視点) ①既習事項の明示 ②考え方を持ち、伝える場の設定 ③板書の工夫	A	・複式の授業、一人一人がしっかりと学習に取り組んでいる姿が見られてよかった。 ・放課後パワーアップの充実で成果が出ている。	
			①地域・保護者とのつながりを深める ②働き方改革の推進	①保護者アンケート(学校の取組・教職員の姿勢)における肯定的評価の割合	80%	80%	100%		125%	4	○保護者アンケートでは、大変肯定的に評価していただいた。学校だより、学級通信等で情報公開に努めた。さらに、保護者とは、児童の問題行動だけでなく、良さについても連絡、連携を密にとつたり、全職員でペタペタをそろえて教育活動に取り組んだりしたことでも評価につながったと考えられる。	・今後もさらなる積極的な情報公開に努め、信頼される学校運営を推進していく。 ・児童の様子について情報共有し、一人一人に確実な力をつけていくよう、取組を進めていく。	A	・特になし	
信頼される学校	地域に開かれ、保護者から信頼される学校づくりを推進する。 安心安全な教育環境の整備・保持に努める。	①地域・保護者とのつながりを深める ②働き方改革の推進	①積極的な情報公開に努める。 ・学校だより、学級通信の充実 ・HPやメールを使った情報公開 ・積極的な授業公開(授業参観、学校運営協議会、民生児童委員訪問等)	①保護者アンケート(学校の取組・教職員の姿勢)における肯定的評価の割合	80%	80%	87%		109%	4	●教職員アンケートでは、やりがい・充実感においては、肯定的評価が100%であったが、児童と向き合う時間における肯定的評価が60%と低かった。放課後に各委員会や行事等の準備が入ることが多く、教材研究の時間が十分に取れなかった。	・職員間で相談したり、助け合ったりすることができるので、今後も風通りのよい職場づくりを推進していく。 ・各委員会の精選、行事の見直しの持ち方等、放課後の時間で有効に使うことができるよう、改善点について職員全体会議で考えていく。	A	・特になし	